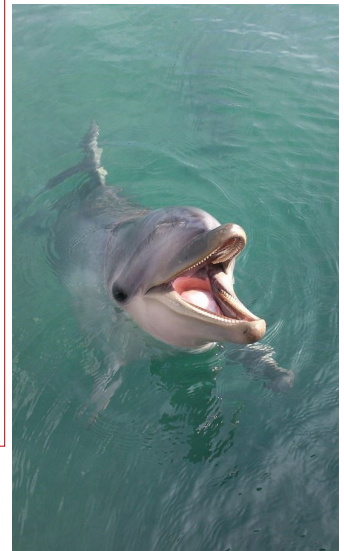


紀南病院 研修医通信第42号

2014年1月号 (平成26年1月31日発行)

「三分の一」 東京大学医学部附属病院 井上貴博

1か月こちらで過ごしてみても思ったのはなんとっても人の温かさです。病院スタッフの方々には気さくに声をかけて頂き、ストレスを感じることもなく、スムーズに研修に入ることができました。研修は毎週の振り返りを通じて、フレキシブルに組むことができたので、自分は超音波の実習を研修に組み込んで頂きました。週末には珍しく早起きして、本州最南端の潮岬、那智の滝、まぐろ祭り、くじら博物館などなど、多くの観光名所を訪れ、くまの駅伝にも参加して充実していました。自分はもともと食べることが好きで、こちらは食べ物が大変おいしく、予想通り1か月で3kgも体重が増えてしまいました。この1か月で心も体も大きくなった気がします。。こちらの生活にも慣れてきたので、来月はさらにアクティブに動いて、多くのことを吸収していきたいです。3ヶ月こちらにいますので今後ともよろしくお願ひします。



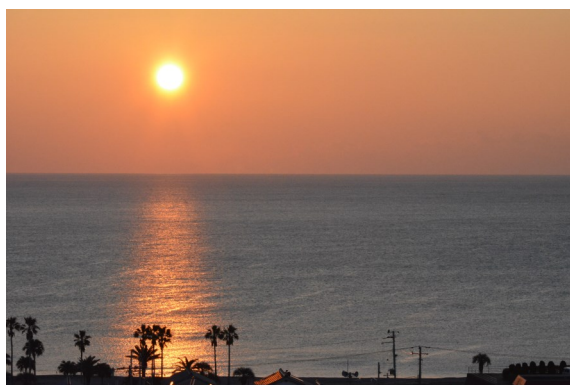
「地域医療研修」

東京大学医学部附属病院 中込圭一郎

今回の研修は大学とは違う視点で医療に携わる大変貴重な経験となりました。様々な疾患を一人で診ること、そして初診から退院後のフォローまでを完結させることを経験し、来年からの医療に役立てて行きたいと思いました。また地域の医療を目の当たりにすることで、将来何らかの形でへき地の医療にも関わりたいと考えさせられました。

休日は毎週様々な所に観光に行き、紀伊半島の自然を楽しむことができました。温暖な気候で1月とは思えないほど過ごしやすかったです。食べ物や酒も美味しく日常生活も充実した研修生活でした。

1ヶ月間あっという間に研修が終わりました。先生方をはじめ、事務の方々やコメディカルの方にも大変お世話になりました。ありがとうございました。



～2014年 1月某日 紀南病院 屋上からの朝焼け～

photo by 平田

「紀南病院での一ヶ月間」 鈴鹿中央総合病院 平田佳寛

1月6日から1月31日までの4週間、紀南病院でお世話になりました。

この病院で一番感じたこと、それは紀南病院は急性期病院であるとともに慢性期病院でもあるということです。急変した患者さんを救急外来で受け入れ、入院加療を行い、リハビリまでしっかり行ってから退院へ。所属している病院では急性期のみしか見ていませんでしたが、この4週間でリハビリや介護保険の重要性を強く感じました。

また診療所での実習では、限られた医療資源の中での診察で、いかに問診と身体診察が大事か、改めて痛感させられました。

ひとつ心残りなのは、週末に用事があり、この辺りの観光にあまりいけなかったこと…。絶対にプライベートで遊びに来ます！！